

第80回 太陽精神碑建立記念祭

太陽精神でよりよき社会をつくる

皇紀2679年、建国記念の日の2月11日に本年最初の六次行事である
第80回太陽精神碑建立記念祭が、全国会員代表参集のもと御霊地にて盛大に開催された。



五穀が供えられた太陽精神碑前で岡野理事長が奉告文奏上



第2部式典にて誓願文を奏上する岡野理事長



全国各地から参集した会員代表が真心からの祈りを捧げる



早川常任理事発声による万歳三唱



ファンファーレ隊による国歌演奏



第3部直会で行われた餅撒ぎに歓声があがる



青年部による温かい五色うどんの奉仕

曇天の厳しい寒さの中、午前8時45分より本部役員が参列し、太神社殿前にて奉告祭を執行。

午前10時、多くの会員が詰めかける中、第1部太陽精神碑前の儀が開式、岡野英夫理事長が奉告文を奏上した。

続いて、お山にて鼓笛隊の勇壮な入場行進の後、11時15分より第2部太陽精神碑建立記念祭式典が開式。岡野理事長が国旗に向かい、誓願文を奏上された。

式辞では岡野理事長が、「本年は、来る立教100年に向けて基本的な準備を整える年。目標をしっかり定め、親子孫が一つになれる社会、安心と歓喜と希望のあふれる社会、民族の伝統を尊重し現代的知性に生きる社会を皆様と共につくって参りましょう」と述べた。

来賓祝辞では、現王園孝昭北本市長（田中正昭企画財政部長代読）の挨拶を頂き、最後は、早川廣美常任理事の発声による

万歳三唱をもって終了となった。

第3部直会では、女性部、青年部によるお神酒や甘酒などの接待が行われる中、お山後方ステージでは、解脱太鼓「あばてい」と共に、昨年に引き続き招待された地元の楽団に所属している方の舞の披露があり、第80回の節目を祝して紅白の餅撒ぎが行われた。また肌を刺すような冷え込みの中、温かい五色うどんが今年も好評を得て、長蛇の列ができていた。

立教100年に向け力強い一歩を踏み出す



力を結集し、布教が更に推進されることを太神様前にて祈願した

立教100年に向けての出発点となる平成31年度本部全体会議が1月26日に、本部布教推進会議が翌日27日に御霊地・解脱研修センターにて行われた。本年より新たに選任された岡野英夫理事長、宮坂保徳教務局長を迎え、布教体制が一新された中で、本部役員、本部教務員、全国各教区長ら布教に従事する総勢162名が集結し、研鑽した。

1日目、岡野理事長の「これまでを総決算し、新たな精神で立教100年を目指していこう」との開会宣言で始まり、辞令交付の後、渡辺孝彦顧問より挨拶があった。

所信表明で岡野理事長は、立教100年へ向けて、温かな思いやりの実践を呼びかけると共に、会話力のある「女性の力」の必要性について言及し、今後女性が布教の第一線で活躍することを期待した。さらに、御代替わりの本年こそ、金剛さ

まのご精神を受け、日本建国の精神と御皇室の尊さを世の中に訴えかけていく使命があることを示し、最後に「本部布教活動方針に則り、意識を合わせ踏み出そう。我々の心が和していけば必ず良い結果が出る」と協力と実行を力強く呼びかけた。

午後からは、「支部活動目標奉告の儀」が太神様前にて執り行われ、岡野理事長が奉告文を奏上した後、般若心経三巻、宝号百八反を念唱し、心を合わせ、布教推進を祈願した。

会場に戻った後、「本部布教活動方針の徹底」について述べた宮坂教務局長は、その話の中で、本会の宝として「供養」「人材」「三聖地巡拝」を挙げ、本年は特に思いやりを発揮する実践行として「供養の充実と徹底」を提示した。その後に行われた圏域会議では、圏域毎に話し合いが持たれた。



所信表明を行う岡野理事長 趣旨説明を述べる宮坂教務局長



各圏域の活性化のため、活発な意見交換が持たれた圏域会議

2日目、拝礼行事、岡野理事長の議長挨拶で始まった本部布教推進会議では、宮坂教務局長からの「圏域会議趣旨説明」、武井達郎布教部長からの「出講について」の話をもとに、再び圏域会議が行われた。

その後、会場を分け、「教区長会議」と「本部出講者研修」が同時進行で行われた。教区長会議では宮坂教務局長のもと、圏域との関わりについてコンセンサスが取られた。一方、本部出講者研修では、まず早川廣美常任理事が出講の心得について述べ、続いて倉田正治常任理事と皆川朋子理事が出講体験を発表。2名が発表した家族や会員に対する思いやりの真心で実践した体験に、会場から大きな拍手が沸き上がった。

最後に、岡野理事長の総括で2日間の会議が終了し、更なる飛躍を誓い合って散会した。

ミャンマー・スタディツアー 2019 第2回事前学習会

ツアーに向けて志気を高めた

3月2日～9日に行われる「ミャンマー・スタディツアー」の2回目の事前学習会が2月10日、御霊地・中央棟2階にて行われ、ツアー参加者12名とスタッフが集った。

初めに、前青年本部長の宮原秀治指導員が、「これまでの人生を振り返る一週間となります。施設で暮らす親のいない子供たちの実状を知り、立派になって帰ってきてください」と当ツアーでの体験を

交えて挨拶を述べた。続いて、岡野孝行青年本部長が、「解脱会の代表として参加していることを忘れずに、強い信念を持ち、目の前の人々のために奉仕する大切さを学んでください」と激励した。

その後、ジャパンハートの佐藤抄理事と鈴木綾氏（看護師）を迎え、同団体の歴史や訪問する各施設の現状など詳細な説明と質疑応答、その後参加メンバーのスピーチと続き、最後は増永憲治団長が



ら熱い思いが伝えられた。

ツアーに向けて志気を高め参加者たちは翌日、第80回太陽精神碑建立記念祭に参加し、明るく元気に、そして声高らかにまごころ募金の呼びかけを行った。

平成31年度 節分会

全国各地で節分会！春の到来を祝す



威勢よく福豆を撒く岡野理事長（本部道場）



高らかな掛け声と共に（関西道場）



会員たちは歓喜の声と共に福をかき集めた（湘南道場）



御霊地鎌心館では獅子舞が邪を払う（御霊地・解脱鎌心館）



福豆が撒かれると会場は歓声に包まれた（中部道場）



「福は内」の掛け声と会員の歓声で会場が沸いた（札幌道場）

平成最後の節分会を2月3日（札幌、湘南は2月1日）、全国各地にて開催。

本部道場では、地元・荒木町や四谷三栄町の方が会員と共に多数来場する中、岡野英夫理事長による三声一声の掛け声が続いて豆撒き式が行われた。直会では地元荒木町のフラダンスや福引抽選会に、参加者は大いに盛り上がった。

御霊地では、多くの北本市民がチャリティーバザーに長い列をつくり、開会時には700名以上の人で溢れた。西村晴雄常任理事は日頃の、特に記念大祭での協力と理解に改めて御礼を述べた。現王園孝昭北本市長は祝辞の後、地元代表らと共に豆撒きを行った。バザー売上金は社会福祉協議会へ贈られた。

関西道場では、青年講座後に続いて青年部員も多数参加し、約100名の来場となった。中元敏彦道場長の「節分、立春について」の講話の後、教区長、支部長、年男年女12名が福豆を撒いた。その後、お神酒を頂きながらカラオケ、福引きに盛り上がった。また、参加者全員に福が来るようにダルマ、福銭、福豆を配った。

中部道場では、年男年女15名のもと、当日の参加者は午前中の青年講座に引き続き参加した多くの青年部員を含む240名が集った。山本英次道場長の講話の後、年男年女入場。三声一声の発声で豆が撒かれた。福袋が渡された後、恒例の抽選会があり、皆喜びに溢れ、景品を受け取り大いに盛り上がった。

湘南道場では、報恩日終了後に開催され、本部より木村正則常任理事が出講、神奈川・静岡教区の会員が参集した。まず堀精二道場長が節分会について述べた後、年男年女が威勢よく豆を撒き、会員は歓声と共に福を集めていた。豆撒き終了後は、お神酒などを頂きながら奉納演芸や福引で楽しく過ごした。

札幌道場では、雪の舞う中多くの会員が集い執り行われた。報恩日終了後、袴姿の年男が入場、拝礼行事の後、井上公郎道場長から本部を代表して挨拶。豆撒き式が行われ、会場は大変な熱気に包まれた。その後は、本部、道南教区各支部、会員から提供された景品により大抽選会が行われた。

神戸五十波支部継承感謝会

新たな門出を祝して

神戸五十波支部では1月8日、支部継承感謝会を支部道場にて開催し、本部より早川廣美指導員が出講、20名が集った。

当支部は、平成8年に西村洋美氏が西宮小松支部として設立。同29年1月に西村氏が霊界入りし休止となるが、教区の支えにより座談会として継続。同30年秋季大祭にて神戸五十波支部として、谷口いず子氏が支部長を継承した。感謝会では、早川指導員の「感謝と喜びの心を出発点に歩むことが幸せへの人生とつながる」との新た



な門出にちなんだ学びを一同が心に刻み込んだ。

谷口支部長は西村前支部長から頂いた『念ずれば花ひらく』のお言葉を心に置いて、会員と共に努力精進する所存です」と決意を新たにしていた。

美健販売終了のお知らせ

これまで長い間ご愛用いただいていた美健（赤缶・青缶）が製造中止のため、本年4月末をもちまして、販売を終了いたします。



本会における在庫にも限りがあるため、大量のご注文に対しては、お応えできない場合がございますこと、ご承知おきくださいませ。

●お問い合わせは解脱会事業係まで

03-3353-2191

神戸教区・阪神淡路大震災24年メモリアル

震災横死者へ追悼の真心捧げ



塔と追悼碑周辺の土地への撒き供養を行った。また、当寺の一般参詣客の中にも共に供養を捧げる姿が見られた。

最後の挨拶にて中山満介神戸中央支部長が、

平成7年1月17日の発生から24年が経過した今も、神戸の人々には忘れることのできない阪神淡路大震災。神戸教区では1月13日、今年も神戸市内の須磨寺の追悼乃碑前にて、震災横死者之霊に対して供養祭を執行、60余名の会員が参加した。

西田義信教区長による回向文奏上、荒川洋三神戸垂水支部長の先達により全員で供養

参加者が年々増えていることに触れつつ「ぜひ、私たちが会員の真心でこの震災メモリアルを大きな行事にしていこう」と当行事の意義について述べた。参加者からは震災発生当時の怖さや避難生活の大変さ、犠牲者を悼む声などが聞かれ、今生かされていることへの感謝と、世の為人の為にとの思いを今一度心に刻みつつ散会した。

京都教区・泉山内七福神巡りで接待

天茶を真心からご奉仕

新春恒例の泉山内の七福神巡りが1月14日開催され、当行事に併せて京都教区では解脱金剛宝塔前にて、天茶接待奉仕及び布教活動を行った。



各支部会員有志30名が参詣客を真心で接待し、合計180杯の天茶の奉仕を行った。

当日は晴天に恵まれ、たくさん訪れた参詣客と、奉仕する会員との間で、喜びに満ちた笑顔での交流があった。

早出奉仕の方も、楽しい雰囲気、交代の時間が来てもその場に残るなど有意義な

時間を過ごした。

今年は、参拝の方々も世代交代が感じられ、昨年までは年配の方々が多く訪れていた印象だったが、今年は、若い世代が多く、昨年とは違った賑やかさに包まれていた。

来年度はもっと布教活動にも力を注ぎたいと会員らは志気を高めていた。

春秋大祭に向けた万部供養の申込みについて

万部供養は、金剛さまの御法力と「神宝」と呼ばれる御五法、そして陀羅尼経のおはたらきにより、諸霊が安霊するだけでなく、いきいきとはたらいていただける大変尊く有り難い供養です。春秋の大祭には忘れずに申し込ませていただきます。

感謝と孝養の真心で

霊界入りされた父母や祖父母に対しては天茶供養を充分にして、感謝と孝養の心を込めて申し込むことが基本です。

また土地関係や職業関係で申し込む時は、日々そのお蔭により生活させていただいていることの御礼と報恩の気持ちを忘れないようにしましょう。

「修身安楽」は、「自分の行いを正しく律し、立派な人になる」との意味があり、自分はもちろん、家族や親戚を申し込むとよいでしょう。金剛さまは万部供養の第1号にご自身をなされ、2号から21号まで修身安楽に御一族をされています。

「終身安楽」は、「一生の間、幸福に生活できますように」との意味があり、特別にお世話になったの方々に対して感謝の祈りを込めて申し込みます。

申し込む時の心構えが大切

万部供養は、我々が日々生かされ、ご加護いただいている諸々の靈魂に対する感謝と御礼の供養です。この供養により靈魂は完全成仏され、さらにいきいきとはたらくことができるようになります。

万部供養の執行により、万部供養の本証は御霊地に永久保存され、「霊祭執行之証」が申し込まれた会員に渡されます。

金剛さまがご在世当時に渡された執行之証には、次のような内容の文章が同封されていました。

「今回、霊祭されたご意志をお忘れなく家族や親戚に伝えられ、この執行之証は家宝として保存してください」

万部供養は、申し込む時の「意志」が大切ですので、申請時には、どの靈魂を申し込むかを支部長や家族とよく話し合い、支部御神前で必ずご挨拶を申し上げてから申し込ませていただきます。



万部供養の御法楽は大祭大祭において五智如来堂で行われる

春季大祭の申込メ切は4月15日

(本部必着/各支部のメ切日は異なりますのでご注意ください)